

成長につなぐ — 事例17ゴールズ&169ターゲット

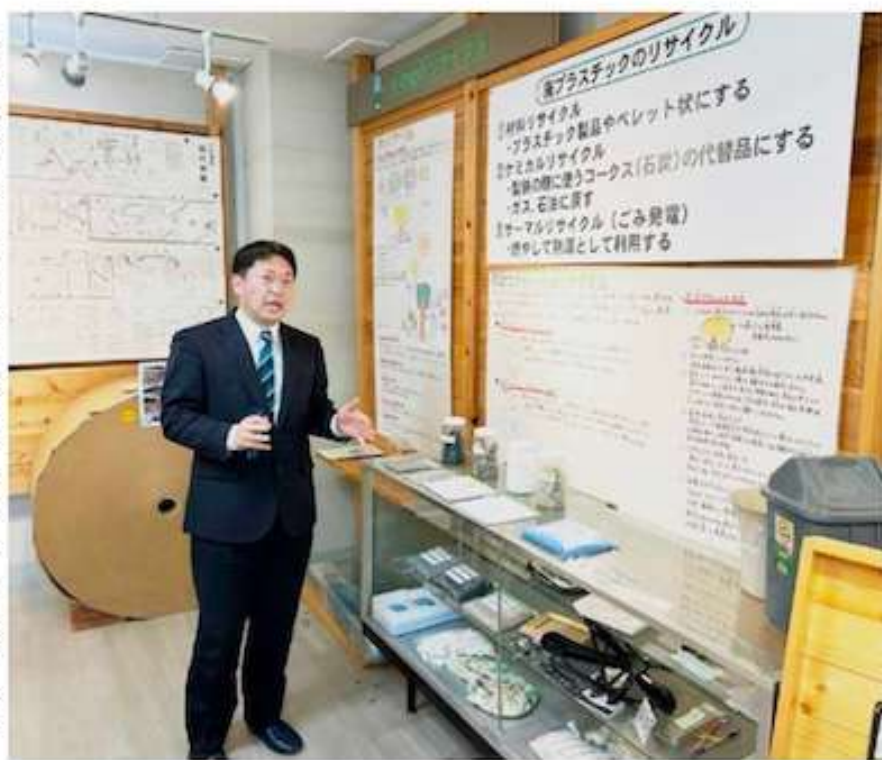
182

荒川産業

福島県内で「アマルク」のブランド名で知られる荒川産業（福島県喜多方市、荒川健吉社長）。金属・プラスチック・機密文書・タイヤ・食品などさまざまなリサイクル事業を行う中で、「資源循環の

次」を目指した活動を展開している。

JR喜多方駅にほど近い同社の本社。敷地入り口に大型の資源回収ボックスが置かれ、一般の人が車で訪れては次々に段ボールなどの資源ゴミを入れていく。各地の事業所にも同じようなボックスが設置され、24時間365日受け入れ可能だ。



本社に設置した「リサイクルミュージアム くるりんこ」で廃プラスチックのリサイクルを説明する荒川社長

リサイクル軸に地域貢献事業 拡大

リサイクル処理工場では重量鉄鋼物の解体やスクラップ処理が行われ、知らない人には近寄り難い雰囲気。そんなイメージを変え、地域のリサイクル活動に貢献しようと始めたもので「資源リサイクル工場として一般の人に開かれたコンビニのような存在になりたい」と荒川社長は話す。

さらに23年には地域循環型量鉄鋼物の解体やスクラップ処理が行われ、知らない人には近寄り難い雰囲気。そんなイメージを変え、地域のリサイクル活動に貢献しようと始めたもので「資源リサイクル工場として一般の人に開かれたコンビニのような存在になりたい」と荒川社長は話す。



福島県内で回収された古紙を原料に商品化したトイレットペーパーの「福くめぐり」

その一環で、1994年には本社3階に「リサイクルミュージアム くるりんこ」と名付けた施設を開設。事前予約制で小学生から大人まで、実物を見ながら資源循環の仕事の仕組みを学べる。

事業はリサイクルにとどまらない。15ものグループ法人を持ち、ガソリンスタンドからレンタカー、自動車修理、教習所、デイサービスと幅広い。収集した小型家電の分解作業は障がい者雇用につなげ、24年初めには教習所での合宿免許の宿泊先としても使えるよう「喜多方ライトホテル」をオープンした。

4代目となる荒川社長は経営理念に「地域資源の発掘、地域課題の解決」という創業者の言葉を挙げる。「我々は単なるリサイクルではなく資源を作り出す使命を担う。時代の変化に合わせて、地域経済に価値をもたらす商品や事業も手がけていく」考えだ。